

Weekly-Report

C X 週間展望（4月5日～）

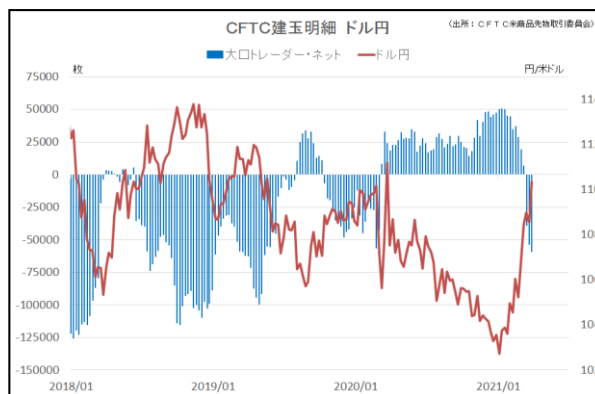
日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「4月2日はグッドフライデーで米休場。多くの海外市場がイースター休暇に入る。銀行も基本的には休業日で債券市場も休みだが、連邦政府の法定休日ではないため米雇用統計は発表される。今回の雇用統計は、ワクチン接種の進展や行動制限緩和から強気になる可能性が高く、事前予想との乖離で薄商いの中、値が飛びリスクには注意したい。心理的節目110円に乗せてくると、2020年3月24日高値の111.71円～2020年2月20日高値の112.22円が意識される。一目均衡表からは、V=110.35円、E=110.42円などが上値目標値。FRB当局者による緩和継続宣言にもかかわらず、米長期金利は上昇傾向を続けており、円売りドル買い要因」としたが、先週は、月末、四半期末、年度末を挟んだ一週間で実需フローが交錯する中、ドル買い優勢だった。



3月31日にバイデン米大統領が8年間で総額2兆ドル規模となるインフラ投資計画を発表し、これが景気回復への期待感や米長期金利の上昇につながった。米10年債利回りは3月18日に一時1.75%前後まで上昇後、いったん1.60%前後まで低下したが、3月30日には一時1.77%台まで上昇を見せた。

米長期金利の上昇はドルの支援材料となっているが、111円手前では上値を抑えられて伸び悩みを見せている。

バイデン政権の掲げる2兆ドル規模のインフラ投資計画は発表されたものの、巨額な投資の財源は法人税率の増税（21%から28%へ）で賄うとしている。巨額の財政出動に伴って共和党の反対も予想され、実現へ向けてはハードルも高いと想定される。

ドイツでは今年の成長見通しが引き下げられた。欧州では米国と比べてワクチン接種の遅れが指摘されており、これがユーロドルの売り圧力の一因となっている。

1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望 (4月5日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

【週末のNY市場】

週末のドル円は、横ばい。前日と同じ1ドル=110円55～65銭で終えた。3月の米雇用統計で雇用者数の伸びが市場予想を大きく上回り、円売り・ドル買いが先行したが、徐々に持ち高調整の円買いが入った。

雇用統計で非農業部門雇用者数は前月から91万6000人増え、市場予想(67万5000人増)を上回った。レジャーや宿泊業、飲食業の雇用者数が大きく伸びた。新型コロナワクチンの普及で経済活動の正常化が一段と進むとの見方が強まった。

CFTC建玉明細(3/23 現在)は、59,481枚の売り越し。前週(53,525枚の(円)売り越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

今週は7日の米FOMC議事録(3/16-17日開催分)と、8日のパウエルFRB議長によるIMFパネルディスカッションが注目。

ワクチン接種進展+追加経済対策で経済成長が顕著で、物価もターゲットを超えて上昇しているにも関わらず、超緩和的姿勢維持が示された3月のFOMCについて、議事録でどのような議論があったかが注目。緩和姿勢維持が強調されると、インフレ期待拡大から長期金利の上昇要因となる。利上げの前に実施されると見られる量的緩和の縮小(テーパリング)に向けたヒントの有無にも注意したい。

3月のトレンドと4月のトレンドが転換しやすいアノマリーには注意。



3月4月のドル円トレンドの継続性

	3月	4月	
2000年	円高	円安	X
2001年	円安	円高	X
2002年	円高	円高	○
2003年	円高	円安	X
2004年	円高	円安	X
2005年	円安	円高	X
2006年	円安	円高	X
2007年	円高	円安	X
2008年	円高	円安	X
2009年	円安	円高	X
2010年	円安	円安	○
2011年	円安	円高	X
2012年	円安	円高	X
2013年	円安	円安	○
2014年	円安	円高	X
2015年	円安	円高	X
2016年	円高	円高	○
2017年	円高	円安	X
2018年	円高	円安	X
2019年	円高	円安	X
2020年	円安	円高	X
2021年	円安		?

(出所)リフィニティブ

超緩和的姿勢維持が示された3月のFOMCについて、議事録でどのような議論があったかが注目。緩和姿勢維持が強調されると、インフレ期待拡大から長期金利の上昇要因となる。利上げの前に実施されると見られる量的緩和の縮小(テーパリング)に向けたヒントの有無にも注意したい。

3月のトレンドと4月のトレンドが転換しやすいアノマリーには注意。

Weekly-Report

C X 週間展望 (4月5日～)

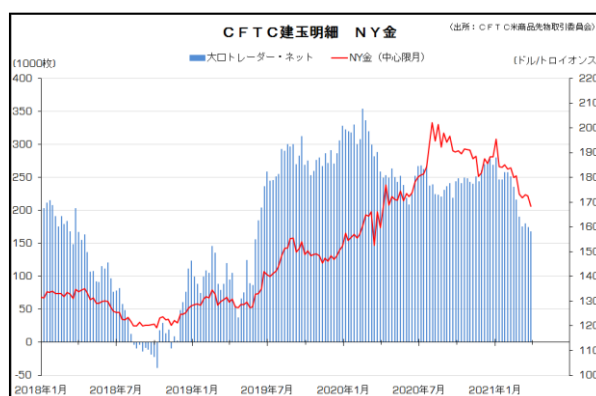
日産証券

調査課 菊川 弘之

金先物(4/2 清算値:6,134円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで《～前略》。商品相場の10年サイクルでの底打ちが、2020年のコロナショックで大底を確認した可能性が高まっている中、金利上昇やトルコショック等で下落した金の安値は、後々振り返ると、良い買い場を提供したということになりそう。バイデン大統領は31日にペンシルベニア州ピッツバーグを訪れ、数兆ドル規模のインフラ投資計画を発表する予定。世界的な財政・金融政策の総動員で、債務は巨額に膨れ上がっており、いずれどこかの段階で、金への急激なシフトが起きると考える》としたが、先週のNY金(6月限)は、バイデン米大統領が31日にインフラ投資計画を発表するとし、景気回復期待から米債券市場で長期金利が一時1.77%と昨年1月以来の高水準を付けた事や、投資会社のアルケゴス・キャピタル・マネジメントの損失問題に対する懸念を受けてドル高に振れた事を嫌気して始まった。



フランスのマクロン大統領は31日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、パリなどに適用していたロックダウン(都市封鎖)措置を全国に拡大すると発表。欧州中央銀行(ECB)理事会メンバーのワイトマン独連銀総裁は新型コロナウイルスの感染急増で域内の経済再開が遅れるなか、ECBが先に示した今年4%の経済成長目標の達成が危うくなっているという見方を示したことで、ユーロ売り・ドル買いが進んだことも金の上値を抑えた。

ただし、3月のユーロ圏の製造業購買担当者景気指数(PMI)改定値は62.5と1997年6月の調査開始以降で最高となった。一方、米新規失業保険申請件数は71万9000件と、前週から悪化した。欧米のマクロ経済指標の強弱感からユーロ高ドル安を受けて、1700ドル以下の押し目は買われた。

ただし、3月のユーロ圏の製造業購買担当者景気指数(PMI)改定値は62.5と1997年6月の調査開始以降で最高となった。一方、米新規失業保険申請件数は71万9000件と、前週から悪化した。欧米のマクロ経済指標の強弱感からユーロ高ドル安を受けて、1700ドル以下の押し目は買われた。

アルケゴスの運用資産は100億ドル前後だが、レバレッジ取引により実際の運用規模は500億ドル程度に膨らんでいた。イエレン米財務長官は金融安定監督評議会(FSOC)の会合を開き、ヘッジファンドが金融システムに及ぼすリスクを査定するための作業部会を復活させると表明した。

3
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望 (4月5日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

金先物(4/2 清算値:6,134円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(6月限)は、グッドフライデー(聖金曜日)で休場。

CFTC建玉明細(3/30 現在)は、167,528枚の買い越し。前週(174,067枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

強気の雇用統計もあり、米金利上昇圧力は継続しそうだが、米金利上昇に伴う金の下落は、1700ドル割れで、かなりの部分、織り込み済み。

RSIは、逆行減少を形成しており、NY金は、ダブルボトム形成中。ネックライン(3/18 高値:1756.1ドル)を上抜くと、ダブルボトム完成となる。その際に、10年債利回りが、ネックライン(3/24 安値:1.589)割れなら、金の底打ち感の信頼性は高まる。

インド輸入関税引き下げもあり安値では実需の買いも出ており、米商品先物取引委員会(CFTC)建玉明細でも、大口投機玉の膨れ上がっていた買い越し整理が確認できる。

中国では「報復消費」と言われるコロナで大きく落ち込んでいた婚礼用消費が急拡大している。2019年2Q以降は、価格上昇にも関わらず、金の生産量は減少傾向を辿っている。採掘コストの上昇、含有する金鉱石品位が落ちていることなどから、採掘しやすい鉱脈はほとんど採掘し尽くされている上に、バイデン政権下では、金鉱山が温室効果ガスの排出量削減に伴い、生産量を減らさざるを得ないとの見方も浮上している。52週移動平均線は上向きを維持しており、終値ベースで同水準を超えてくると「グランビルの買い法則」が確認される。



Weekly-Report

C X 週間展望（4月5日～）

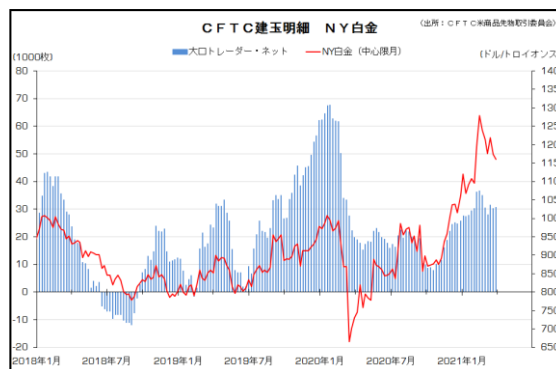
日産証券

調査課 菊川 弘之

白金先物(4/2 清算値:4,260円)

【前週レビュー】

先週レポートで「米ゼネラル・モーターズ（GM）は、北米での生産縮小を延長すると発表。世界的な半導体不足が理由。ミズーリ州ウェンツビルの組立工場を3月29日と4月5日からの週に休止する。またミシガン州ランシングの工場では3月15日からの休止を2週間延長。またHondaはサプライチェーン（供給網）の問題により、北米の一部工場での生産休止を3月29日の週まで継続すると発表。北米の自動車工場の減産延長は、上値抑制要因に。内外共にネックラインの攻防が焦点。ネックライン割れなら、ダブルトップ完成から、一時的な売り圧力も要想定」としたが、先週のNY白金（7月限）は、米金利上昇に伴うドル高や、フランスのロックダウン（都市封鎖）拡大で欧州の景気の先行き懸念が圧迫要因になったが、バイデン米大統領のインフラ投資計画期待による株高もあり、ネックラインを割ることなく、三角保合いに移行中。



【週末のNY市場】

週末のNY白金（7月限）は、グッドフライデー（聖金曜日）で休場。

CFTC建玉明細（3/30 現在）は、30,606枚の買い越し。前週（30,226枚の買い越し）から拡大。

【今週見通し・戦略】

第1四半期の米新車販売台数は増加し、新型コロナウイルス流行に伴う昨年の低迷から回復している兆候を示唆した。

燃料電池車（FCV）では白金の触媒が使われ、その使用量は一台あたりディーゼル車の10倍近い量になるとの観測もある。南アの恒常的な電力不足も下値支持要因。金やパラジウムなどと比較しての相対的な割安感が下値支持要因。アルケゴスショックの余波から株価の大幅な崩れがなければ、2020年3月安値を起点とした上昇トレンドが継続しそうだ。

Weekly-Report

C X 週間展望（4月5日～）

日産証券

調査課 菊川 弘之

ゴムRSS3(4/2 清算値:251.5円)

【先週レビュー】

先週レポートで「2020年9月安値～2020年10月高値までの上昇に対する38.2%押し水準で下げ止まるか否かが焦点。仮に、250円台を回復しても、255円台まで上値を伸ばせないと、一目均衡表では、現在の雲の上（強気時代）から雲の下（弱気時代）へ価格は落ち込むことになる。



当先の鞘も順鞘であり、需給タイト感の後退している」としたが、先週のRSS3号は、241.1円（3/31 安値）まで続落後、週末にかけて下値を切り上げた。産地はウィンタリング（落葉期=減産期）に入っており、現物見合いでは割安水準で、戻りを試す展開となった。

当先限の鞘には大きな変化はないものの、中限は先限が売られた影響もあってか順鞘縮小の動き。

【今週見通し・戦略】

9月限一代足ベースも、8月限同様、納会にかけては、値を崩す傾向がある。当先の鞘も、順鞘に変化しており、中長期的な鞘滑りが意識される内部要因。今年は新型コロナウイルスの影響で2年連続、お祭りは中止だが、タイでは通常、4月のソクランの水祭りが終わると、減産期（落葉期）終了が意識される。過去の季節傾向通り、戻りは売られやすいか？

ゴムRSS3号9月限の価格推移（2000年以降）

RSS3号9月限 2000～2022年	発会日	発会値	一代高値		一代安値		出所/リフィニエブ			
			価格	発会比	価格	発会比	日付	納会値	発会比	
2000年3月限	00年3月28日	82.2	89.7	△ 7.5	00年3月9日	65.4	▲ 16.8	00年3月14日	74.1	▲ 8.1
2001年3月限	01年3月27日	70.3	84.0	△ 13.7	01年3月26日	57.0	▲ 13.3	01年3月19日	57.0	▲ 13.3
2002年3月限	02年3月26日	89.3	127.4	△ 38.1	02年7月18日	89.0	▲ 0.3	02年3月26日	101.6	△ 12.3
2003年3月限	03年3月26日	129.5	149.7	△ 20.2	03年3月24日	102.5	▲ 27.0	03年5月7日	147.0	△ 17.5
2004年3月限	04年3月26日	151.7	164.9	△ 13.2	04年4月15日	131.7	▲ 20.0	04年7月26日	136.5	▲ 15.2
2005年3月限	05年3月28日	141.4	204.1	△ 62.7	05年7月26日	134.9	▲ 6.5	05年5月8日	139.0	△ 51.6
2006年3月限	06年3月28日	258.4	323.7	△ 65.3	06年6月13日	190.5	▲ 67.9	06年9月22日	197.0	▲ 61.4
2007年3月限	07年3月27日	285.5	299.5	△ 14.0	07年4月17日	232.2	▲ 53.3	07年3月22日	247.2	▲ 38.3
2008年3月限	08年3月26日	285.0	380.1	△ 95.1	08年3月24日	277.1	▲ 7.9	08年3月31日	380.1	△ 95.1
2009年3月限	09年3月26日	149.0	205.0	△ 56.0	09年3月10日	148.0	▲ 1.0	09年3月23日	190.0	△ 41.0
2010年3月限	10年3月26日	300.0	338.5	△ 38.5	10年4月16日	251.7	▲ 48.3	10年5月17日	295.8	▲ 4.2
2011年3月限	11年3月28日	436.0	481.9	△ 45.9	11年4月11日	290.0	▲ 146.0	11年3月26日	315.4	▲ 120.6
2012年3月限	12年3月27日	341.2	341.9	△ 0.7	12年3月27日	186.3	▲ 142.9	12年3月16日	240.5	▲ 100.7
2013年3月限	13年3月26日	279.5	297.7	△ 18.2	13年5月13日	221.9	▲ 57.6	13年3月25日	263.8	▲ 15.7
2014年3月限	14年3月26日	238.4	239.3	△ 0.9	14年3月26日	158.0	▲ 80.4	14年3月24日	159.8	▲ 78.6
2015年3月限	15年3月25日	213.8	241.1	△ 27.3	15年3月2日	150.7	▲ 63.1	15年3月16日	156.0	▲ 57.8
2016年3月限	16年3月25日	175.3	203.6	△ 28.3	16年4月27日	146.5	▲ 28.8	16年3月17日	175.5	△ 0.2
2017年3月限	17年3月28日	235.3	250.8	△ 15.5	17年4月5日	177.8	▲ 57.5	17年3月7日	207.0	▲ 28.3
2018年3月限	18年3月27日	178.8	199.9	△ 21.1	18年5月22日	143.9	▲ 34.9	18年3月20日	145.0	▲ 33.8
2019年3月限	19年3月26日	184.6	225.2	△ 40.6	19年7月25日	150.6	▲ 34.0	19年3月26日	165.2	▲ 19.4
2020年3月限	20年3月26日	151.7	221.6	△ 69.9	20年3月2日	138.3	▲ 13.4	20年4月2日	217.9	△ 66.2
2021年3月限	21年3月26日	249.0								

・当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望（4月5日～）

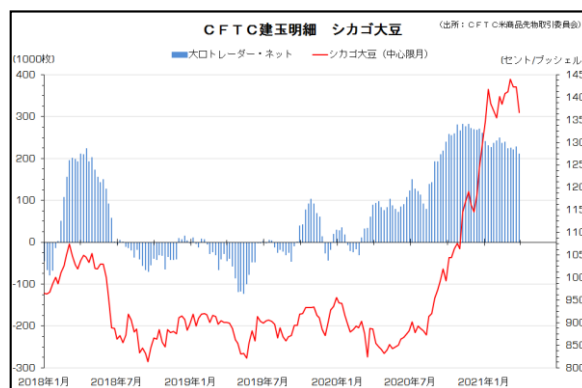
日産証券

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(4/2 清算値:46,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「中国からの需要が低迷するに伴い、週間純輸出成約高も今期最低水準での推移が続いている。多雨が続いていたブラジルでは収穫が遅延しているとはいえ、天候が回復するに伴い同国からの輸出拡大が見込まれ、これが中国の米国産大豆需要低迷の要因になっている」と見られる。



月末に米農務省（USDA）から作付意向面積の発表が行われるが、作付拡大が見込まれていることも重石となっている。ただし、低在庫率・需給タイトに変化はなく、日柄をかけて保合い放れ待ちの展開としたが、先週のシカゴ大豆（5月限）は、31日に発表された米農務省（USDA）による作付意向面積は、2月にUSDAが展望会議で示した9000万エーカー、事前予想（8999万エーカー）を下回る8760万エーカーにとどまった事で、需給逼迫懸念が強まり期近の主要限月は値幅制限高（ストップ高）いっぱいまで買われた。

週末のシカゴ大豆（5月限）は、グッドフライデー（聖金曜日）で休場。

CFTC建玉明細（3/30 現在）は、211,679枚の買い越し。前週（227,664枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（3月25日までの一週間）】

大豆：23万6800トン（事前予想レンジ：10万～70万トン）

【今週の見通し・戦略】

大豆・コーンいずれも適正期末在庫水準（15%）を大きく下回る危機的な数値での天候相場入りとなる。まずは大豆よりも1ヶ月程度早く始まる米国産コーンの作付け進捗率が注目される。

コーンの作付が順調であれば、大豆にとっては強気、コーンの作付が順調に推移しなければ、農家のコーンから大豆への作付シフトが連想され、大豆にとっては弱気要因となる。

Weekly-Report

C X 週間展望（4月5日～）

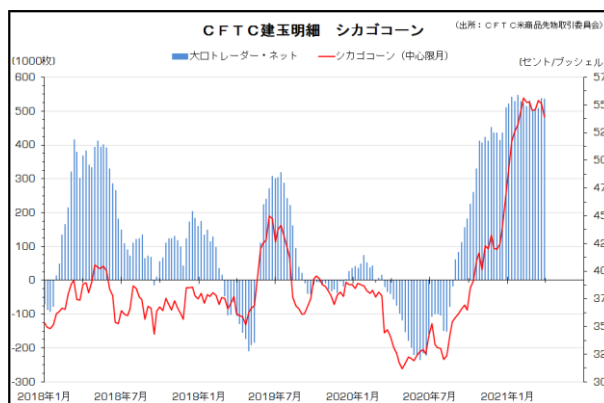
日産証券

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(4/2)清算値:31,530円)

【先週レビュー】

先週レポートで「USDA主催のアウトLOOKフォーラム（展望会議）で発表された21/22年度の米国産コーン生産高見通しは151億5000万Bu、期末在庫見通しは15億5200万Bu。作付面積増加は、ある程度は織り込み済みで、事前予想と大幅乖離がなければ、550セント台での保合いを継続しながら、実際の作付進捗を見極めていこうとする展開へ」としたが、先週のシカゴコーン（5月限）は、急騰となった。3月31日に発表された今年の米国産コーンの作付面積が9114万4000エーカーとなり、事前予想の9310万4000エーカーを下回ったことで、ストップ高をつける限月が続出した。



週末のシカゴコーン（5月限）は、グッドフライデー（聖金曜日）で休場。

CFTC建玉明細（3/30 現在）は、535,345枚の買い越し。前週（538,700枚の買い越し）から縮小。

【週間純輸出制約高（3月25日までの一週間）】

コーン：85万3000トン（事前予想レンジ：40万～90万トン）

【今週の見通し・戦略】

5日の引け後に今年1回目の作付け進捗率が発表予定。適正期末在庫水準（15%）を下回る危機的な数値での天候相場入りとなる。まずは大豆よりも1ヶ月程度早く始まる米国産コーンの作付け進捗率が注目される。長雨となると作付けが遅れ、買い材料視されやすい。異常気象の恒常化が意識される中、順調な作付けが確認されるか、価格上昇に伴う需要減少（レイショニング）が確認されるまでは、押し目は買われやすい地合いが継続しそうだ。9日に農務省需給報告。

1日時点の全米四半期在庫が77億0064万Buとなり、昨年同時期の79億5200万Buを下回った。期末在庫に下方修正があるかが注目。

Weekly-Report

C X 週間展望（4月5日～）

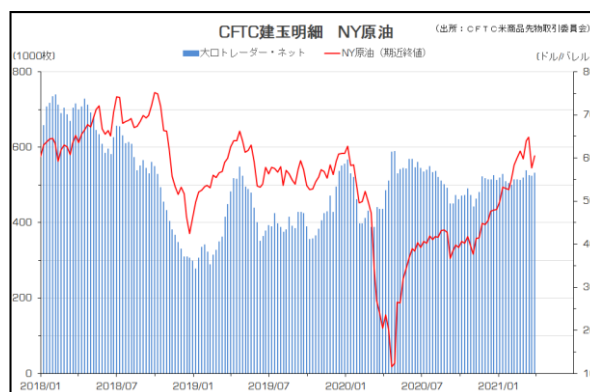
日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「1日にOPECプラス会合がオンラインで実施される予定だが、ロシアから増産要請は出ていない模様で、減産幅などは現状維持となる模様で増産は見送られる見込み。現在の減産幅は日量700万バレル強。さらにサウジアラビアが同100万バレルの自主減産を実施している。」（～中略）。



エジプトのスエズ運河で起きた大型コンテナ船座礁事故からの復旧作業は26日も続いた。作業は難航しており、支援や態勢強化の動きが出ている。

（～中略）。運河の復旧までには不安定な気象条件も絡んで数週間を要する見込み。（～中略）。NY原油は、60ドルを挟んで保合いで日柄経過待ち」としたが、先週のNY原油（5月限）は、スエズ運河での大型コンテナ船座礁は29日までに離礁に成功して、同日午後（日本時間30日未明）に6日ぶりに運航が再開した中、1日に開催された石油輸出国機構（OPEC）プラスのオンライン会合は、段階的に増産することで合意したが、原油需要の拡大に自信を示したとの受け止めが広がり、買いが優勢になった。

サウジアラビアの自主減産終了も含めて、OPECプラスは5～7月にかけて合計で日量200万バレル超増産するものの、需給見通しが改善していることから吸収可能とみられている。新型コロナウイルスが流行するなかでも、指標である経済協力開発機構（OECD）加盟国の石油在庫は2月まで7ヶ月連続で減少している。

OPECプラスは減産目標を5、6月に日量35万バレル、7月は同40万バレル程度縮小する。日量100万バレルの自主減産を実施しているサウジアラビアは5月に日量25万バレル、6月に35万バレル、7月に40万バレル増産し、自主減産を終了する。

米国のグランホルム・エネルギー長官とサウジアラビアのアブドルアジズ・エネルギー相が電話会談したことは好感された。米国の政権交代後、サウジアラビアと米国に表立ったやりとりがなく不安視されていたものの、産油国間の協力関係構築が期待された。

Weekly-Report

C X 週間展望（4月5日～）

日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油（5月限）は、グッドフライデー（聖金曜日）で休場。CFTC建玉明細（3/30 現在）は、531,310枚の買い越し。前週（523,055枚の買い越し）から拡大。



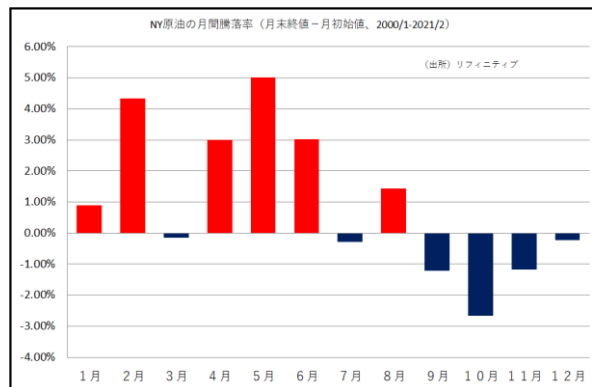
【石油掘削リグ稼働数（米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ）】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが1日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油掘削リグの稼働数は前週比13基増の337基と、2020年4月以来の高水準に達した。増加数は20年1月以来の大きさとなった。

国内天然ガス掘削リグの稼働数は前週比1基減の91基。

【今週の見通し・戦略】

スエズ運河で大型コンテナ船が座礁し、急伸する場面もあったが、3月内に運河通行が再開し、上値は抑えられた。欧州やインドなどで新型コロナウイルスが再流行しており、インドで新たな変異種が見つかったことも重しとなった。世界第3位の石油消費国であるインドでは感染者数の増加に伴い、死者数が増え始めている。



「OPECプラス」は、米国などでは新型コロナウイルスのワクチン接種が急ピッチで行われており、石油需要が回復する見通しであることから、段階的に増産することで合意した。

年初から主要な商品の中でも強い動きを見せていた原油市場だが、3月は調整含みとなった。ただし、過去の月間騰落率では、4月・5月と強気の時間帯に向かう。株価の大幅な崩れがなければ、高値圏での推移が予想される。ただし、パターン分析からは、三尊天井の（右）肩を形成中で、ネックラインを割り込むと、一時的な売り圧力が高まりやすい形状である点には注意。

Weekly-Report

C X 週間展望 (4月5日～)

日産証券

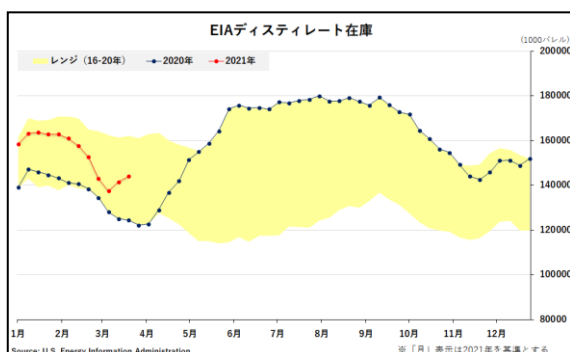
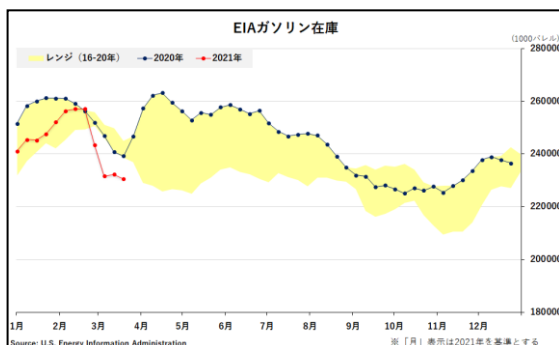
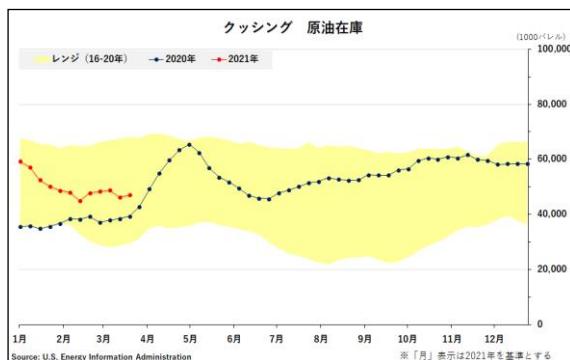
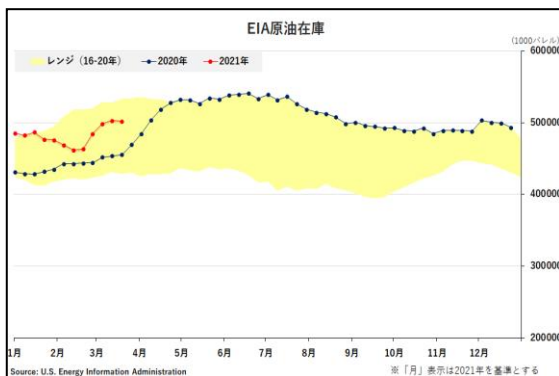
調査課 菊川 弘之

東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油	5億0184万バレル	87万6000バレル減少
クッシング	4706万バレル	78万2000バレル増加
ガソリン	2億3054万バレル	173万5000バレル減少
留出油	1億4410万バレル	254万2000バレル増加



【石油連盟週報】

石油連盟週報(21日～27日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比4.8%減の180万5418キロリットル。灯油在庫は同3.5%増の152万1279キロリットル。週間原油処理量：0.3%増の280万6691キロリットル。

推定出荷量は、ガソリンが7.4%増の83万8517キロリットル。

灯油が11.8%減の20万4018キロリットル。

Weekly-Report



C X 週間展望 (4月5日～)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (4/5～4/11)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
4月5日(月)	17:30	ユーロ圏	4月	ユーロ圏投資家センチメント指数	
	22:45	米国	3月	マーケット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	59.1
	22:45	米国	3月	マーケット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	60.0
	23:00	米国	2月	製造業新規受注 (前月比)	2.6%
	23:00	米国	3月	ISM 非製造業総合指数	55.3
	休場	中国	—	清明節	
4月6日(火)	8:30	日本	2月	全世帯消費支出 (前年比)	-6.1%
	10:45	中国	3月	財新 サービス業購買担当者景気指数 (PMI)	51.5
	18:00	ユーロ圏	2月	失業率	8.1%
	23:00	米国	2月	JOLTS 求人件数	6.917 (百万)
	未定	—	—	IMF 春季会合 (オンライン)	
	15:00	英国	3月	準備資産総額	178,804.91 (百万)
4月7日(水)	16:55	ドイツ	3月	マーケット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI)	50.8
	16:55	ドイツ	3月	マーケット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	56.8
	17:00	ユーロ圏	3月	マーケット サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	48.8
	17:00	ユーロ圏	3月	マーケット 総合購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	52.5
	17:30	英国	3月	マーケット / CIPS サービス部門購買担当者景気指数 (PMI) 改定値	56.8
	23:30	米国	2月	貿易収支 (USD)	-68.2 (十億)
4月8日(木)	4:00	米国	2月	消費者信用残高	-1.31 (十億)
	8:50	日本	2月	経常収支	646.8 (十億)
	15:00	ドイツ	2月	鉱工業受注 (前月比)	1.4%
	17:30	英国	3月	マーケット / CIPS 建設業購買担当者景気指数 (PMI)	53.3
	18:00	ユーロ圏	2月	生産者物価指数 (PPI) (前月比)	1.4%
	18:00	ユーロ圏	2月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	0.0%
4月9日(金)	21:30	米国	3月22日, 週	継続失業保険受給総数	3.794 (百万)
		日本		菅首相訪米 (～10日) 延期 (16日出発で調整中)	
		日本		参議院補欠選挙公示日	
	1:00	米国	—	USDA 需給報告	
	4:30	米国	前週分	CFTC 建玉明細	
	10:30	中国	3月	生産者物価指数 (PPI) (前年比)	1.7%
4月10日(土)	10:30	中国	3月	消費者物価指数 (CPI) (前年比)	-0.2%
	15:00	ドイツ	2月	鉱工業生産 (前月比)	-2.5%
	15:00	ドイツ	2月	貿易収支 (EUR) 季調値	22.2 (十億)
	16:30	英国	3月	ハリファックス住宅価格 (前月比)	-0.1%
	21:30	米国	3月	生産者物価指数 (PPI) 最終需要 (前年比)	2.8%
	21:30	米国	3月	生産者物価指数 (PPI) 食品・エネルギー除く (前年比)	2.5%
4月11日(日)	23:00	米国	2月	卸売在庫 (前月比)	0.5%

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

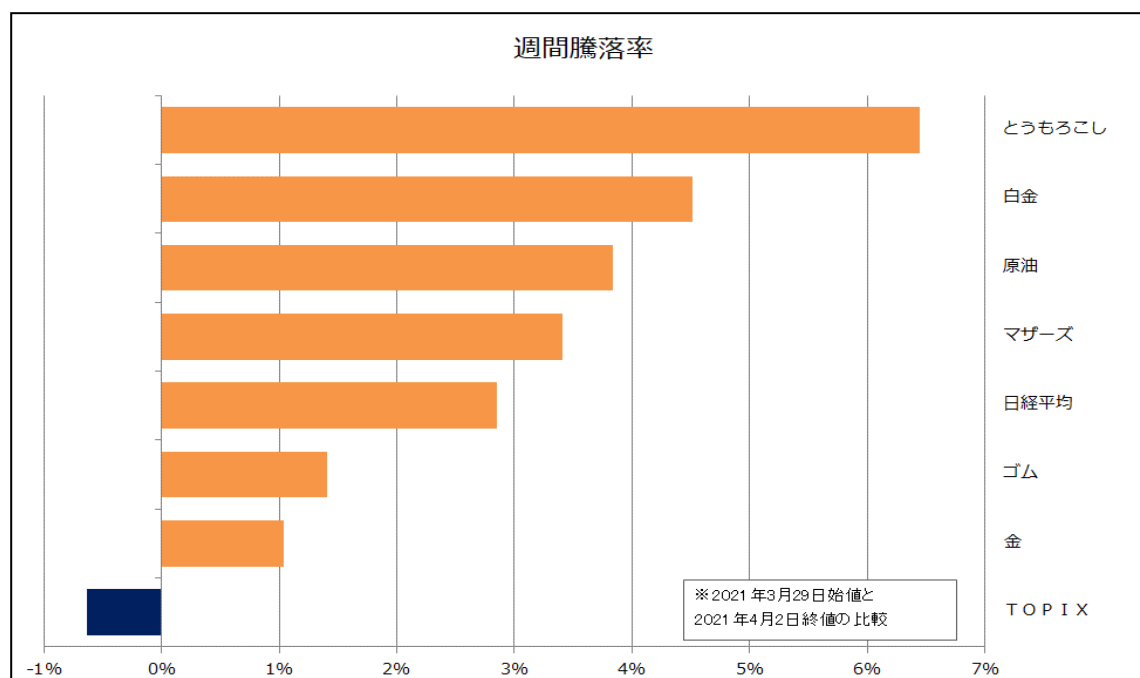
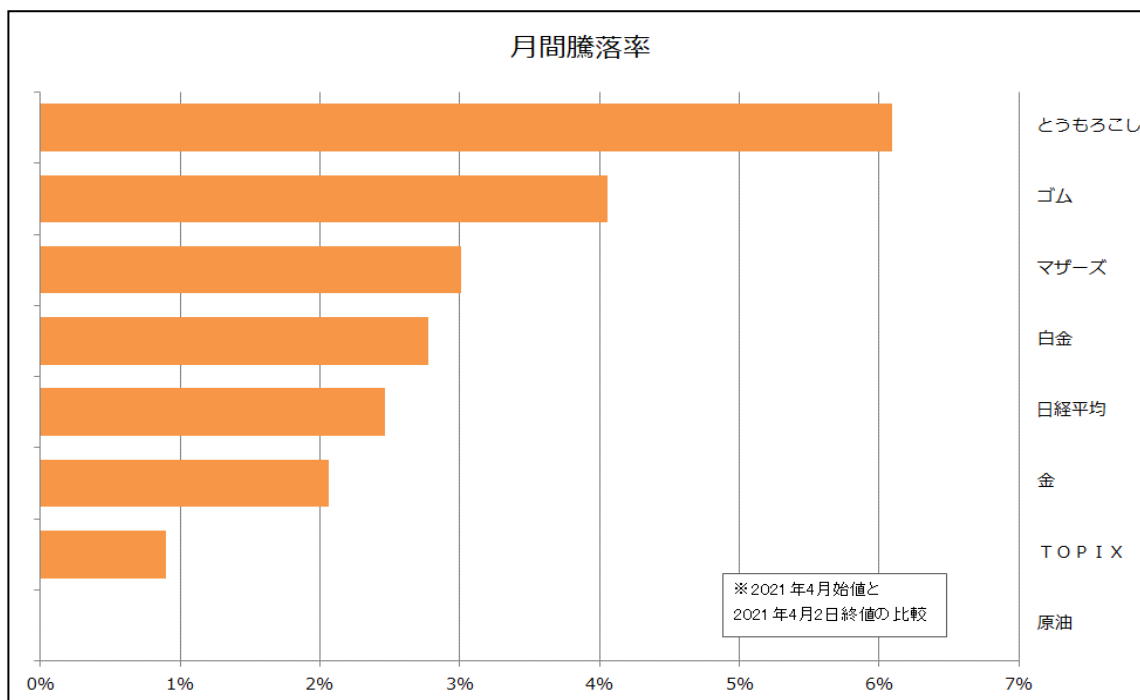
Weekly-Report

C X 週間展望 (4月5日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

【騰落率(月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。